重監房資料館
「実寸大再現」
（石田智子撮影）

# 近現代考古学の展望

## 病・戦争・産業遺産から考える現代社会への軌跡

考古学では近現代の遺跡の扱いが議論されており、地域や対象に応じて基準にばらつきがあるのが現状です。現在の私たちにつながる資料や情報がこのままでは失われてしまいます。本セミナーは、「ハンセン病」「戦争遺跡」「産業遺産」の観点からの話題提供を踏まえて、近現代考古学の今後の展望について総合的に議論することが目的です。過去を未来につなげる方法について一緒に考えましょう。

日時：2025年10月29日（水）13:00～16:50
場所：ラーニングコモンズ２（法文学部２号館２階）
　　オンライン（参加方法の詳細は後日連絡）
★対面・オンラインともにQRコードから要事前申込（10月24日締切）

13:00～13:10　開会・趣旨説明
13:10～13:50　黒尾和久（国立重監房資料館）
　「隔離の記憶を掘る
　　～国立ハンセン病療養所栗生楽泉園・重監房跡の調査成果を中心に～」
13:50～14:30　上田耕（大福コンサルタント調査部・鹿児島県考古学会）
　「戦跡を掘る～知覧飛行場跡の調査から～」
14:40～15:20　藤井大祐（鹿児島市教育委員会管理部文化財課世界遺産保全係）
　「産業遺産の保全と活用―寺山炭窯跡災害復旧の事例から―」
15:30～16:40　ディスカッション
16:40～16:50　コメント・閉会

問い合わせ｜鹿児島大学法文学部人文学科　石田智子（ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp）

助成｜法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター令和７年度地域マネジメント教育研究プロジェクト「垂水の戦争の記録と活用：地域社会との価値共創」（石田智子・中嶋晋平・吉田明弘・高嶺光佑）